

桂萱地区青少年健全育成会は、地域の青少年が心身ともに健やかに成長するように、地域で子どもたちを見守り育て、社会の一員として自立していくことを願い、青少年健全育成活動を推進しています。

主な計画の取組としては下記のとおりとなります。

①「青少年健全育成活動」…のびゆくこどものつどい、前橋のこどもを明るく育てる活動、地域内世代間交流等

②「防犯・環境浄化活動」…巡回、あいさつ、声かけ運動等

③「広報活動」…啓発活動（看板作成）、広報紙の作成及び配布等

第5類移行後も新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、主だった事業において例年どおりの規模での開催ができませんでしたが、趣向を凝らして子どもたちとの関わりを大切に事業を継続しています。

今後も桂萱地区青少年健全育成会の活動に、ご理解、ご協力をお願いいたします。

令和5年度 主な行事報告



5/14 のびゆくこどものつどい・ふれあいの広場

4年ぶりに開催。新型コロナウイルス感染症の影響から会場内での飲食を禁止しましたが、子どもたちが体験するコーナーを多数設けて大いに盛り上がりました。

9/9 子ども会親子防災教室

親子及び役員23人が参加して、地震車による地震体験や絵本の読み聞かせなどで防災について学びました。



11/12 子ども会親子工作教室

大人28人、子ども36人合計64人が参加。秋の休日を、親子でバルーンアートを作成して楽しみました。

10/13 「前橋のこどもを明るく育てる活動」桂萱地区発表会

発表会としての開催は4年ぶり、桂萱中の佐藤桃夏さん及び鎌倉中の黒岩駿さんによる少年の主張、桂子連及び更女桂萱支部による活動報告が行われました。



11/26～12/10 子ども会書道絵画展(表彰式12/10)

出品された書道134点、絵画79点、合計213点を桂萱公民館ロビーに展示しました。最終日の12月10日に優秀作品55点の受賞者を表彰しました。

1/14 子ども会上毛かるた競技交流会

保護者や役員が見守る中、6チーム、21人が参加して上毛かるた競技で、熱戦を繰りひろげました。

「昨年に思うこと」 桂萱地区青少年健全育成会 会長 草間 幹雄



昨年5月14日に桂萱公民館及び桂萱中学校第2グラウンドにおいて、「のびゆくこどものつどい・ふれあいの広場」を4年ぶりに開催しました。

開催の準備をしている当時、新型コロナウイルス感染症に関しては、政府が第5類への移行を決定していましたが、専門家の中にはまだまだ予断を許さないとおっしゃっている方もいらっしゃいました。そこで、新型コロナウイルスへの感染防止の観点から、会場では水分補給を除く飲食の禁止と、飲食物を調理して販売または配布するブースも設営できないこととさせていただきました。また、開催時間も例年よりも短い午前9時から11時30分までとさせていただきました。

当日は、各団体の皆様が様々な工夫をされ、飲食抜きでも多くの子どもたちが楽しめるコーナーを作っていたことで、大盛況でした。賑わっている会場の各ブースを回って感じたことは、実行委員会・学校関係・各種団体・ボランティアの皆様のご協力と、役員・保護者のアイデアが多くの参加者を招いたということです。

なお、これからの時代が子どもたちにとって素晴らしい時代になりますように、社会全体で見守り育てることが大切だと思います。

「DXの進展と子ども会活動」 桂萱地区子ども会育成団体連絡協議会 会長 吉野 努



昨年5月、コロナ感染症が5類となり、いろいろな活動が手探りながらも復活してきました。一方、コロナ禍で活動が停滞していたときに、急速に進展したのがあります。それは、DX（デジタルトランスフォーメーション）。学校では子どもたちにタブレット端末が配られ、家庭では子どものパソコン利用、スマホの所持などを通じて、学習のみならず、ゲームやプログラミング、SNSなどの利用が急速に拡大しています。

こうした流れの中で課題として、コミュニケーション能力への影響が懸念されます。人と対面で話したり、ともに体験したりする中で、伝える力や相手を理解する力、すなわち、コミュニケーション能力は培われます。子どもの時にいろいろな人と接することがその力を付けるための第一歩ですが、コロナ禍で制限されてきました。

今後、人と接することの重要性を再認識する必要がある、子ども会活動や育成会活動はその一つの手段になるのではないかと考えています。同年代だけでなく年齢の異なる友達づくり、友達の親との関係づくりなどを通じて、人間関係を学ぶことができます。

DXが進展する中であっても、子ども会活動などを通じて、人と人との関係づくりを大切に健やかに育ててほしいと願っています。

「今、思うこと」 桂萱地区青少年育成推進員会 会長 織田 晴人



公私とも変化の多い年でした。世間では、新型コロナウイルス感染症が5類移行となり「4年ぶり」というワードがあちこちで使われました。

個人的には、青少年育成推進員の会長職に任命されたことが、一番の変化でした。この歳になるまでリーダーシップを発揮することも無く、ましてや率先して手を挙げることもしないキャラでした。前任の松田会長からの引継ぎが手厚いものでなければ散々なこととなっていたと思います。

桂萱地区に越してから早26年、子育ても卒業して今は2人の孫の成長を楽しみに過ごしていますが、会長職になって改めて地域との関わりを感じる機会が増えました。

最近、地区の中学校、小学校の「サポート会議」に招かれました。校長先生、教頭先生、学年主任、地区の民生委員さんと学校内の情報共有の場として有意義な会議でした。

個ではなかなかできないことをチームとして成立できるような環境を作り出せるように、また、その時間を楽しくするように努めたいと思います。